

2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 医療心理科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|------------|-------------|--|--------------------------------|-------------------|---------------|
| 科 目 名 | 精神保健福祉基礎論Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年 | | 学期及び曜時間 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 飯塚 稔 | 実務経験とその関連資格 | 法務省さいたま少年鑑別所で心理技官(臨床心理士)として考査・鑑別業務に従事した。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 臨床心理学及び障害者・障害児心理学について、前期の学習を元にアウトプットをメインに再学習する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 試験素点70% 出席評価点20% 平常評価点10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| (参考図書) 心とかかわる臨床心理 川瀬正裕 他 ナカニシヤ出版 認定カウンセラー資格試験公式テキスト | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 授業で配布されたレジュメや過去問題を、復習としてもう一度清書してください。その際に、十分理解していない部分は自分で調べるひと手間があると、より学習が進みます。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 出来るだけ身近な具体例を紹介します。理解できたと思ったときは、ぜひ他の人に説明をしてみてください。なお、この授業では公認心理師、精神保健福祉士、言語聴覚士、心理学検定等の過去問題にも触れます。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 精神分析学、精神分析療法について過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 授業ガイダンス 臨床心理学の歴史と成り立ち、フロイトの理論、精神分析療法、関連する過去問題 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 分析心理学、対象関係論、自己心理学等について過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 分析心理学、対象関係論、自己心理学、関連する過去問題 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ロジャーズとエリクソンの理論について、過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ロジャーズの人間観、傾聴とカウンセリング、エリクソンの心理社会的発達理論、実存主義、関連する過去問題 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 気分(感情)障害について過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 気分(感情)障害の症状、病因、メカニズム、心理療法、関連する過去問題 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 統合失調症について過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 統合失調症の臨床像、病因、メカニズム、治療法、関連する過去問題 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|--------------------------------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 神経発達症(自閉症スペクトラム)と知的障害について過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 神経発達症とは何か、自閉症スペクトラムの臨床像、対応法、関連する過去問題 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 神経発達症(学習障害、ADHD)について過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学習障害のタイプ、ADHDのタイプ、各対応法、関連する過去問題 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 不安障害、強迫スペクトラム障害、ストレス関連障害について過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 各障害のタイプ、病因、メカニズム、治療法、関連する過去問題 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 解離性障害、心身症について過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 解離性障害のタイプと臨床像、拒食と過食、過呼吸、関連する過去問題 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | パーソナリティ障害について過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 |
| | | 各コマにおける授業予定 | パーソナリティ障害とは何か、境界性PD、自己愛性PD、関連する過去問題 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 家族の心理や支援について過去問題が解けるようになる。 | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 家族に障害者がいた場合、立場による違い、障害観の違い等 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 学習理論と行動療法について過去問題が解けるようになる | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学習理論と心理療法への応用、行動療法の代表的な技法、関連する過去問題 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 障害の区分や歴史、法制度について、説明できるようになる。 | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 障害とは何か、障害観の歴史と変遷、ICFモデルや生物・心理・社会モデル 等 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 障害の受容や合理的配慮について説明できるようになる。 | PC プロジェクター スクリーン レジュメ | 配布資料を通読 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 障害を受容するとはどういうことか、法律における位置づけと合理的配慮 等 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | これまでの授業内容の過去問題を解けるようになる | PC レジュメ | 配布資料を通読 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 総まとめ | | |